

リビングマルチ大豆栽培のための麦類・大豆同時播種技術

研究のねらい

リビングマルチ栽培技術（図1）は、麦類を大豆と同時に播種することで雑草を抑えることをねらいとするが、その播種作業の能率向上を図るため、整地、麦類と大豆の播種、施肥を1工程で行う方法を開発する。

成果の内容

- ①麦類用（回転横溝ロール式）と大豆用（傾斜目皿式）の播種ユニットを交互に配列すると（図2）、ハローシーダーで麦類と大豆を同時に播種できる。具体的には、3条用大豆ハローシーダーに麦類用のユニットを加えるか、6条用麦類ハローシーダーに大豆用のユニットを加える。
- ②1工程で大豆を70cmの条間で3条、麦類を大豆の条と条の間にそれぞれ2条、計6条播きが可能で、整地、施肥も同時に行うことができる。
- ③35psのトラクタに装着すると、慣行の3条播種と同様に、0.6m/s程度の速度で走行し、1時間で約30a播種することができる。出芽個体数から見て播種精度も良好である（表1）。



図1 リビングマルチ大豆栽培。
麦類が大豆の畦間を覆い、雑草を抑制。



図2 麦類・大豆同時播種用のハローシーダー。
麦類用と大豆用の播種ユニットを交互に配列。

栽培法	所要時間 (/10a)	出芽個体数 (/m ²)		雑草量 (g/m ²)	大豆 収量 (g/m ²)
		麦類	大豆		
リビングマルチ	21分00秒	184.8	11.9	17.9	248
慣行	21分10秒	—	12.9	82.6	173

表1 ハローシーダーを用いて麦類・大豆を同時播種したリビングマルチ大豆栽培の成績例。いずれも土壌処理型除草剤を併用。

成果の利活用

- ①麦類の播種量は10kg/10a程度で、麦類に対する施肥は通常行わない。大豆の播種量および施肥量は慣行通りとする。
- ②雑草の発生量が多いことが予想される畑では土壌処理型除草剤を併用する。



独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構
東北農業研究センター
<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>

〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4
電話 019-643-3414（企画管理部情報広報課）
FAX 019-643-3588